

第 27 回 日本心身健康科学会学術集会

抄録集

メインテーマ

『ライフサイクルからヒューマンを考える

ーホルモンと神経科学の立場から』

会期：2018年9月8日（土）

会場：人間総合科学大学 東京サテライト



日本心身健康科学会

The Japan Society of Health Sciences of Mind and Body

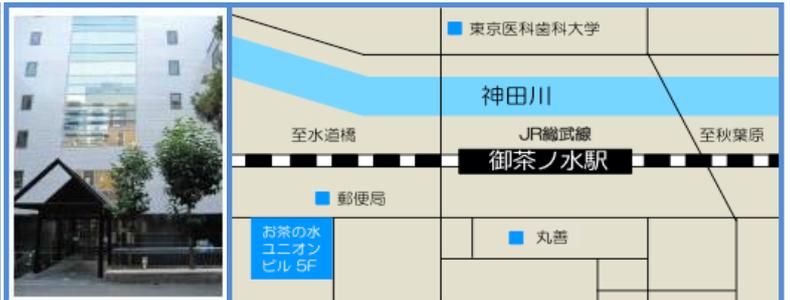
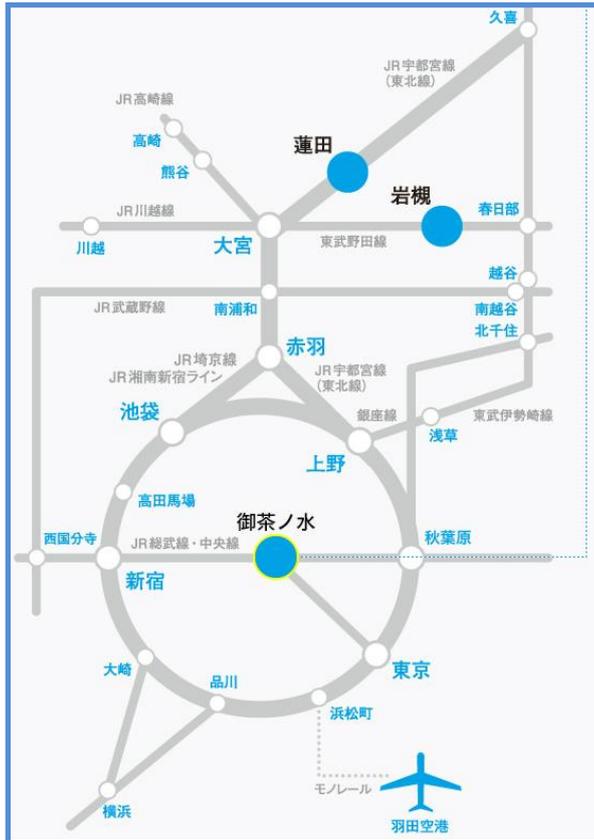
会場案内

人間総合科学大学 東京サテライト

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5F

TEL : 03-5577-6728 FAX : 03-5577-6729

アクセス



人間総合科学大学 東京サテライト

●JR線

総武線・中央線 御茶ノ水駅 御茶ノ水橋（新宿方面）出口 徒歩2分
総武線 水道橋駅 東出口 徒歩8分

●東京メトロ

千代田線 新御茶ノ水駅 B1出口 徒歩6分
丸の内線 御茶ノ水駅 JR方面出口 徒歩5分

●都営地下鉄

新宿線 神保町駅 A5出口 徒歩8分

※最寄駅の「JR線・御茶ノ水駅」からは、「御茶ノ水橋（新宿方面）出口」を出て、明治通り・スクランブル交差点を渡り「交番」の道に入って100m先・左手、正面に「神田駿河台郵便局」があります。

- **参加費：事前参加 3,000 円，当日参加 5,000 円**

*事前参加申込済の方は、当日会場受付にてお名前と学会員番号をお伝え下さい。

*当日参加者の方は参加費を当日会場受付にてお支払いください。

閉会後の懇親会に参加ご希望の方は、別途会費 500 円が必要となります。

- **大会参加者へのお願い**

1. 発表される方へ

- (1) 発表方法は、Power Point によるコンピュータプレゼンテーションとします。
- (2) アプリケーションソフトは Microsoft PowerPoint 2010 を用意しております。それに対応する形式のファイルをご用意ください。
- (3) 発表用データは、9/5（水）正午までに学会事務局宛て E-mail にてご提出ください。
- (4) 発表用スライド枚数に制限はありませんが、発表時間に見合うものとしてください。
- (5) 動画ファイルを使用される方は、ご自身の PC をお持ちください。
- (6) 次演者は発表開始 5 分前までに「次演者席」に着席し、前演者の発表終了後、速やかに「演者席」への移動をお願いします。
- (7) プロジェクターは正面 1 台で、室内正面にスクリーン 1 台、後方にモニター 2 台での映写を予定しています。

2. 一般口演発表の先生方へ

発表時間は、発表 7 分・質疑応答 8 分の計 15 分間です。発表中、6 分経過時（発表終了 1 分前）、7 分経過時（発表終了）、15 分経過時（演者交代）、それぞれベルを鳴らして時間をお知らせします。発表時間は厳守してください。

3. ポスターセッションについて

ポスターセッションは、一般口演終了後（15：35～）開始しますので、その時間はポスター前にて質疑応答をお願いします。発表用ポスター（縦 59.4 cm、横 42 cm：A3 用紙 2 枚分）は、学術集会当日の午前 10:00 までに掲示してください。

4. 座長の先生方へ

- (1) 担当セッション開始 10 分前までに「次座長席」にご着席ください。前セッション終了後、「座長席」へ移動し、速やかに演者の発表を開始させてください。
- (2) 演者の発表時間の超過がないように、適切に進行してください。

5. ご質問される方へ

ご質問される方は、座長の許可を得た後、所属と氏名を述べてから発言をお願いします。なお、質疑応答の時間は限られておりますので、要点のみを簡潔にご質問ください。また、発表時間超過防止の都合上、座長より発言の許可を得られない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

第 27 回 日本心身健康科学会 学術集会
プログラム

2018 年 9 月 8 日 (土)
人間総合科学大学 東京サテライト

【午前の部】

9 : 00			受付開始
9 : 50	～	10 : 00	開会挨拶
10 : 00	～	11 : 00	特別講演
11 : 00	～	11 : 30	シンポジウム 1
11 : 30	～	12 : 00	シンポジウム 2
12 : 00	～	12 : 25	パネルディスカッション
12 : 30	～	12 : 50	総会

*昼食は各自でご用意ください

【午後の部】

13 : 50	～	15 : 35	一般口演
15 : 35	～	16 : 00	ポスターセッション
16 : 00	～	17 : 00	懇親会

1. 開会挨拶

(9:50～10:00)

2. 特別講演

(10:00～11:00)

座長：鈴木 はる江 (人間総合科学大学)

ライフサイクルと心身の健康－女性ホルモンに着目して

鍵谷 方子 (人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科)

3. シンポジウム 1

(11:00～11:30)

座長：鈴木 はる江 (人間総合科学大学)

周産期におけるオキシトシン値の変化と母親役割獲得過程の関連

久納 智子 (藤田保健衛生大学 医療科学部 看護学科)

4. シンポジウム 2

(11:30～12:00)

座長：鈴木 はる江 (人間総合科学大学)

オキシトシンと心身の健康

二神 弘子 (帝京科学大学)

5. パネルディスカッション

(12:00～12:25)

6. 総会

(12:30～12:50)

(昼休憩)

7. 一般口演 (発表7分, 質疑応答8分)

(13:50~15:35)

(13:50~) 座長: 入井俊昭 (東京慈恵会医科大学/警視庁科学捜査研究所)、鈴木淳子 (人間総合科学大学)

13:50~14:05

演題1: 職業性ストレスと職業的アイデンティティの関連

○福永 ひとみ^{1,2)}, 吉田 浩子³⁾, 島田 涼子³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科, 2) 川崎市立看護短期大学, 3) 人間総合科学大学大学院

14:05~14:20

演題2: 就労者の職業観と職業性ストレスの関連

○小林 妙子^{1,2)}, 吉田 浩子³⁾, 鈴木 はる江³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科, 2) 四條畷学園大学看護学部, 3) 人間総合科学大学大学院

14:20~14:35

演題3: 精神看護学におけるシミュレーション教育

—学生の精神看護学実習に対する不安に及ぼす影響—

○武藤 協子¹⁾, 小岩 信義²⁾, 中野 博子²⁾, 矢島 孔明²⁾

1) 横浜労災看護専門学校, 2) 人間総合科学大学大学院

14:35~14:50

演題4: 病棟看護師の職業性ストレスと組織に対する認識の関連

○米山 雅子^{1,2)}, 吉田 浩子³⁾, 鍵谷 方子³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科, 2) 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科,
3) 人間総合科学大学大学院

(14:50~) 座長: 粕谷大智 (東京大学医学部附属病院)、大賀淳子 (埼玉医科大学)

14:50~15:05

演題5: 維持血液透析患者の身体活動量に影響を及ぼす関連要因

○河合 克尚^{1,2)}, 鈴木 はる江³⁾, 庄子 和夫³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科, 2) 平成医療短期大学リハビリテーション学科,
3) 人間総合科学大学大学院

15:05~15:20

演題6: インドネシア都市就学前教室37-48ヶ月児過体重の要因

○尾崎 敬子¹⁾, マルタ・イレネ・カルタスルヤ²⁾, ユディ・ダルマワン²⁾,
吉田 浩子³⁾, 庄子 和夫³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科, 2) ディボネゴロ大学公衆衛生学部,
3) 人間総合科学大学大学院

15:20~15:35

演題7: 社会的シグナルがヒトの衝動性制御機能に及ぼす影響

○浜部 恵美¹⁾, 久住 武²⁾, 小岩 信義²⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科, 2) 人間総合科学大学大学院

8. ポスターセッション・懇親会

(15:35~17:00)

目 次

特別講演 1

ライフサイクルと心身の健康—女性ホルモンに着目して
鍵谷 方子 …… 2

シンポジウム 3

講演 1

周産期におけるオキシトシン値の変化と母親役割獲得過程の関連 …… 久納 智子 …… 3

講演 2

オキシトシンと心身の健康 …… 二神 弘子 …… 4

一般口演 5

職業性ストレスと職業的アイデンティティの関連 …… 福永 ひとみ 他 …… 6
【博士学位申請】

就労者の職業観と職業性ストレスの関連 …… 小林 妙子 他 …… 7
【博士学位申請】

精神看護学におけるシミュレーション教育
—学生の精神看護学実習に対する不安に及ぼす影響— …… 武藤 協子 他 …… 8

病棟看護師の職業性ストレスと組織に対する認識の関連 …… 米山 雅子 他 …… 9
【博士学位申請】

維持血液透析患者の身体活動量に影響を及ぼす関連要因 …… 河合 克尚 他 …… 10
【博士学位申請】

インドネシア都市就学前教室 37-48 ヶ月児過体重の要因 …… 尾崎 敬子 他 …… 11
【博士学位申請】

社会的シグナルがヒトの衝動性制御機能に及ぼす影響 …… 浜部 恵美 他 …… 12
【博士学位申請】

特別講演
シンポジウム
抄録

ライフサイクルと心身の健康－女性ホルモンに着目して

鍵谷 方子

人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科

人が生まれ、成長して、成熟し、老化する過程で、私達の身体には様々な変化が起こり、その変化は死に至るまで続く。身長や体重等のように外部に明確に表れる変化に加えて身体内部では器官ごとに、また機能ごとに多彩な変化が異なるプロセスで起こる。ライフサイクルに伴って起こる身体的変化は遺伝子や外的・内的環境の影響を受けるが、中でも性ホルモンが及ぼす影響は大きい。

どれほど文明が進んでも、最終的に死を迎えるということは避けられない。加齢に伴い様々な機能が低下することは生物として当たり前のことであるが、その中でも心身ともに自立した生活が可能な健康寿命をいかに延ばすかが課題となっている。身体の老化は高齢になってから突如として起こるのではなく、ライフサイクルを通して徐々に、しかし確実にすすむ。科学が発展し、豊かな生活が実現し、長寿を獲得した現代において、改めて心身ともに充実した人生の在り方が問われるようになっている。

「ライフサイクル」というと、米国の心理学者であるエリクソンが提唱した心理社会的発達理論がよく知られている。人々の生き方が多様化した現代において、心理的社会的側面への関心が高まっている。ライフサイクルを通して起こる複雑な心理的变化は、環境とところの相互作用の結果と思われがちであるが、実際には身体内部の変化を反映している場合も多い。一人の人の身体は、60兆個の細胞が集団を作り、遺伝子を含めた内部環境と外部環境の影響のもと、連絡を取り合いながら、バランスを保って生命活動を営んでいる。

本講演では、ライフサイクルに伴う心身の変化について、バランスを保つ上で重要な内分泌系と自律神経系の役割について話を進めながら、ライフサイクルと心身の健康について考えたい。

周産期におけるオキシトシン値の変化と母親役割獲得過程の関連

久納 智子

藤田保健衛生大学 医療科学部 看護学科

オキシトシンは下垂体後葉から分泌されるホルモンであり、ホルモン作用と神経伝達物質としての作用の二面性を持っている。ホルモンとしては、分娩時に子宮収縮を起こさせ、同時に乳腺の筋繊維を収縮させて乳汁分泌を促し、神経伝達物質としては、脳の様々な領域に繋がる神経ネットワークを通して作用する。

成人女子におけるオキシトシンの血中含有量は微量であり、個人差が大きいといわれている（卵胞期： $4.5 \pm 2.6 \text{ pg/ml}$ ，黄体期： $2.1 \pm 1.3 \text{ pg/ml}$ ，小川 1980）。妊娠期のオキシトシンは初期から末期にかけてその受容体数が増加し、有効な陣痛発来を誘発し、産後出血を最小限に抑制する準備をしている。分娩期にはピークを迎え、分娩終了後は一気に非妊娠時の値まで低下するといわれている。

私たちの測定によると、妊娠末期・分娩直後・産褥3日目それぞれの血中オキシトシン値は、 $61.9 \pm 33.2 \mu \text{ U/ml}$ ， $104.2 \pm 33.2 \mu \text{ U/ml}$ ， $38.9 \pm 34.9 \mu \text{ U/ml}$ であり、妊娠末期から分娩期にかけて増加し、産褥3日目には有意に低下した（久納 2014）。この結果は、長尾らの調査結果（1998）と同様であった。また、分娩時にオキシトシン製剤使用の有無別に、血中オキシトシン値と「母親役割の自信尺度得点」と「母親であることの満足感尺度得点」を比較することで、母親役割獲得過程の関連を考察した。全体における各得点はともに産褥1日目より産褥3日目に増加した。一方、オキシトシン値は個人によってのばらつきが大きく、各尺度得点とオキシトシンの関係は明らかにすることができなかった。分娩時オキシトシン製剤を用いた母親（ $n = 4$ ）の分娩直後のオキシトシン値は、未使用の母親（ $n = 7$ ）より低く、その後の経過においても感情や自律神経反応が不安定であった。つまり、分娩時のオキシトシン値は、その後の産褥経過に影響を与える要因であることが考えられた。

出生後、直接母乳が開始されると、児の吸啜刺激により脳内に放出されたオキシトシンは、内側視索前野の受容体と結合して母性行動の中枢を興奮させ、これが母性行動を引き起こすと考えられている。オキシトシンはパルス状に分泌されるため、常に一定の値を持続しているわけではない。児の吸啜刺激により脳内に放出されるオキシトシンの波が、乳汁の量だけでなく母親に落ち着きをもたらし、抱っこなどによる皮膚刺激や体温の感覚等も加わり、母児の相互作用が一層高まることで母親らしさが形成されていくのかもしれない。

オキシトシンと心身の健康

二神 弘子
帝京科学大学

オキシトシンは、脳内の視床下部にあるニューロンで産生され、下垂体後葉に伸びた神経終末からホルモンとして血中に分泌される。20世紀初頭に、オキシトシンが出産時の子宮収縮や母乳の分泌（射乳）を引き起こすことが解明されて以来、オキシトシンの研究は女性を主な対象として進められてきた。近年、視床下部のオキシトシンニューロンは脳内や脊髄にも軸索を伸ばし、神経終末から放出されるオキシトシンは神経伝達物質として鎮痛、不安の軽減、共感、他者への信頼感等にも関与していることがわかってきた。このためオキシトシンは、女性ばかりではなく男性に対しても「安らぎ」と「結びつき」をもたらす物質であると考えられている。

オキシトシンの多様な効果のメカニズムを解明する上で、動物実験は大きな役割を果たしてきた。雄ラットでは交尾行動によってオキシトシン量が増加し、さらに痛みの閾値が上昇することが知られていた。そこでわたしたちは、雄ラットの交尾行動後の痛み閾値上昇とオキシトシンの関係を検討するため、オキシトシン遮断薬を脳室内へ投与する実験を行った。その結果、オキシトシン遮断薬を投与した群では、交尾行動後の痛み閾値の上昇はみられなかった、このことから、交尾行動後の痛み閾値上昇には、脳内のオキシトシンが関与していることが示唆された。

それではヒトにおいて、神経伝達物質として心身に影響を与えるオキシトシンの放出は、どのような条件下で促進されるのだろうか。オキシトシンの放出には、外界からの感覚刺激、特に、触覚刺激が重要である可能性が示唆されている。ごく軽い皮膚刺激は「心地よさ」（快情動）を誘起するとともに、オキシトシン放出を促進するかもしれない。また、オキシトシンによって心身に変容をもたらすシステムは、高齢になっても機能することが示唆されている。ヒトのライフサイクルを通して、オキシトシンは心身の健康に重要な物質であると考えられる。

一般口演 抄録

職業性ストレスと職業的アイデンティティの関連

○福永 ひとみ^{1,2)}, 吉田 浩子³⁾, 島田 涼子³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 川崎市立看護短期大学 3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

本研究は、職業性ストレスと職業的アイデンティティの関連を手がかりに、心身相関の視点から職業性ストレスの軽減に資する新たな実証的知見を得ることを目的に実施した。

【方法】

平成 28 年 1～4 月、看護教員 1034 人に無記名自記式質問紙調査を実施した（回収率 41.3%，有効回答率 89.7%）。常勤女性看護教員 312 人（管理職を除く）の属性、職業性ストレス簡易調査票（下光ら 2000 年）、看護職アイデンティティ尺度（波多野ら 1993 年）、看護教員アイデンティティ尺度（石田ら 2003 年）の回答結果を分析した。統計解析には SPSSver.24 を使用し、t 検定、一元配置分散分析（多重比較は Bonferroni 法）、主成分分析、重回帰分析（変数減少法）を用いた（有意確率 5%）。

【結果】

主成分分析の結果、看護教員の職業的アイデンティティは、第 1 主成分「看護教員に対する満足度」（寄与率 39.1%）と第 2 主成分「看護職または看護教員に対する傾倒」（累積寄与率 53.3%）の 2 つの主成分の組み合わせから構成され、主成分得点の分布によって回答者全体が 4 群に分割された。この 4 群間で職業性ストレス調査票のストレス反応、ストレス要因の下位項目の得点の平均値に有意差が見られ、職業的アイデンティティと職業性ストレスに関連が示された。

【考察】

看護教員の職業的アイデンティティ 4 群間の比較で、職業的アイデンティティの構造が職業性ストレス反応、ストレス要因と関連していたことから、自らの職業上の自意識（こころ）が、身体（からだ）のストレス反応およびストレス要因として認識する事象の差異として現れると言える。よって、自らの職業アイデンティティの自覚がストレス対処の一助となると考える。

【結論】

看護教員の職業的アイデンティティの構造が、職業上のストレス要因、ストレス反応と関連することが実証的に示され、心身相関の視点から、就労者の職業性ストレス低減に資する新たな知見が得られた。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第 471 号）、川崎市立看護短期大学（第 R63 号）

キーワード：職業性ストレス，職業的アイデンティティ，心身健康科学，看護教員，転職

就労者の職業観と職業性ストレスの関連

○小林 妙子^{1,2)}, 吉田 浩子³⁾, 鈴木 はる江³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 四條畷学園大学看護学部

3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

本研究は、職業性ストレスの低減に資する新たな実証的知見を得ることを目的に、歴史的に崇高な職業とされる教諭と看護師を対象に職業観とストレスの関連を調べた。

【方法】

2015年1月～3月に、特定機能病院の看護師850人と公立中・高等・特別支援学校の教諭1000人を対象に無記名自記式郵送質問紙調査を実施し、両職種合計452人の回答（有効回答率95.6%回収率25.6%）を解析した。職業観として「a.献身の姿勢」「b.使命感」「c.職務上の理想像」「d.生涯学習」「e.職務に見合う給与の取得」「f.有給休暇の取得」「g.残業の実施」「h.仕事と私生活の切り離し」の「必要」の有無を尋ね、「新職業性ストレス調査票」（川上他 2012年）を用いた。統計解析はSPSS statistic23.0を用い、 χ^2 検定、t検定、重回帰分析を用いた。

【結果】

職業観を項目ごとに「必要」群と「不要」群に分類し、回答者全体（N=452）の70%以上が「c.職務上の理想像」と「f.有給休暇の取得」以外を「必要」と回答した。職業観の各項目を「必要」群と「不要」群の層別変数とし、「ストレス反応」を目的変数、「ストレス要因」下位項目を説明変数として重回帰分析（変数減少法）を行った結果、「b.使命感」「h.仕事と私生活の切り離し」の「必要」群、「g.残業の実施」の「不要」群、「c.職務上の理想像」「f.有給休暇の取得」の「必要」及び「不要」群で異なる複数の回帰式が特定され（ $R^2 > 0.3$ ）、職業観の違いによりストレス反応を導く回帰式の説明変数が異なっていた。

【考察】

職業観の違いがストレス要因とストレス反応の認知に関連し、自らの職業観の自覚が個人レベルのストレスコントロールに有効である可能性が示唆された。

【結論】

職業性ストレスの低減に資する新たな手がかりとして、職業観とストレスの関連を実証的に示すことができた。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第426号）、甲南女子大学（第2014203号）

キーワード：職業性ストレス，職業観，教諭，看護師，心身健康科学

精神看護学におけるシミュレーション教育

—学生の精神看護学実習に対する不安に及ぼす影響—

○武藤 協子¹⁾, 小岩 信義²⁾, 中野 博子²⁾, 矢島 孔明²⁾

1) 横浜労災看護専門学校

2) 人間総合科学大学大学院

【目的】

実習前に実習を想定したシミュレーション授業を行い、その授業が「精神看護学実習に対する不安」に及ぼす影響を検討した。その結果から、「患者とのコミュニケーションの不安」の理由と対策を明らかにした。

【方法】

平成 29 年 A 看護専門学校（3 年課程）の 2 年生 68 名に実習を想定したシミュレーション授業を行った。授業は、うつ病の 1 事例を用い、実習場面で遭遇する頻度が高く学生が戸惑う場面を設定した。上記の目的で、「精神看護学実習に対する不安」を「一般的不安度」と「要因別不安度」に分け、シミュレーション授業前後にアンケートを実施した。その他、「基本情報」「精神障害者に接する頻度」「授業の理解度」「精神看護学実習のイメージの変化」のアンケートと「STAI（状態不安-特性不安）」を実施した。自由記載の中でコミュニケーションの不安が低減できなかった理由を抽出し、カテゴリー化した。

【結果】

シミュレーション授業によって「一般的不安度」「要因別不安度」の平均値は低下した。「一般的不安度」の変化には、「状態不安 (STAI)」の変化とシミュレーション前の「一般的不安度」が影響していた。コミュニケーションの不安が低減しない理由は「実際にコミュニケーションがうまく実施できるか」が多かった。

【考察】

学生が持つ精神看護学実習に対する不安の低減には、シミュレーション授業の特徴が影響するため、シミュレーション授業を実施するには、学生の特性を考慮し、不安や緊張のない環境を整えることが重要と考える。コミュニケーションの不安は、先行研究から、学生のコミュニケーションの経験が少ないことや教育背景が関連し、容易に低減できないと考える。

【結論】

シミュレーション授業は、学生の精神看護学実習に臨む学生の不安を低減できる。

倫理審査申請承認機関：横浜労災看護専門学校(受付番号 28-56), 人間総合科学大学(第 516 号)

キーワード：シミュレーション教育, 調査研究, 精神看護学実習, 不安, 看護基礎教育

病棟看護師の職業性ストレスと組織に対する認識の関連

○米山 雅子^{1,2)}, 吉田 浩子³⁾, 鍵谷 方子³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科

3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

病棟勤務看護師の職業性ストレスと「組織に対する認識」の関連について質問紙調査を実施し、得られた結果を解析、心身相関の視点から考察し、看護師の職業性ストレスの低減に資する新たな知見を得る。

【方法】

関東近郊の特定機能病院に勤務する病棟勤務看護師 976 人に 2017 年 12 月に無記名自記式質問紙郵送調査を実施した。回答の得られた 299 人のうち、記入漏れのない 215 人を解析対象者とした(回収率 29.9%, 有効回答率 71.9%)。解析の対象とした質問項目は、属性(年代, 経験年数, 性別, 教育背景, 職位), 「組織に対する認識」(組織風土尺度 12 項目版), 「職業性ストレス」(簡易職業性ストレス調査票)であった。統計解析には SPSS Statistics ver.25 を使用した(有意水準 5%)。

【結果】

解析対象者の 45.1%が 20 歳代, 54.9%が 30 歳代で, 全員女性であった。解析の結果, 組織風土尺度を用いて特定した「組織に対する認識」の違いにより全体が 4 群に分類された。この 4 群間には簡易職業性ストレス調査票の「ストレス要因」「ストレス反応」「修飾要因」の各下位尺度得点の平均値に有意差がみられ($p < 0.05$), 重回帰分析の結果, 各群で下位尺度間の関連を示す異なる複数の回帰式($R^2 > 0.3$)が特定された。

【考察】

ストレス要因から導かれるストレス反応の出現に至る過程において, 解析対象者の「組織に対する認識」の違いにより, 出現するストレス反応の程度が異なり, ストレス反応を導くストレス要因が異なっていたことから, ストレス要因から導かれるストレス反応の出現に至る過程への「組織に対する認識」の違いの関与が推察された。

【結論】

組織(就労環境「文化」)に対する認識(「こころ」)の違いが, 心身のストレス反応の違い(「からだ」)に関連し, 「ストレス反応」から「ストレス要因」に至る過程で作用することが示された。

倫理審査申請承認機関: 人間総合科学大学 (第 528 号), 神奈川県立保健福祉大学研究倫理審査委員会 (保大第 29 - 16)

キーワード: 心身健康科学, 組織風土, 職業性ストレス, 修飾要因, 病棟勤務看護師

維持血液透析患者の身体活動量に影響を及ぼす関連要因

○河合 克尚^{1,2)}, 鈴木 はる江³⁾, 庄子 和夫³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 平成医療短期大学リハビリテーション学科

3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

心身健康科学領域の視点から、血液透析患者の身体活動（からだ）と精神的健康（こころ）の関連性に着目し、血液透析患者の身体と心が有機的に関連して起こる心身相関を解明する。これにより、血液透析患者の身体活動性の維持・向上に関する方略立案に寄与することができるものとする。

【方法】

対象は外来血液透析患者 11 名で、身体活動量、身体的・精神的 QOL 指標の腎疾患特異的 QOL 尺度（以下 KDQOL）、心理的苦痛尺度（K6）を測定し、カルテ情報の血液データ、患者背景因子を使用した。身体活動量は、加速度計付歩数計（ライフコーダ GS）を用いて非透析日 4 日間の歩数を測定した。統計解析は、身体活動量（歩数）と各調査項目の相関関係、ならびに対象者を歩数から 2 群に分け、各調査項目を 2 群間で比較した。

【結果】

相関関係では、身体活動量（歩数）と「腎疾患による負担」の間に有意な正の相関がみられた（ $p=0.62$, $p=0.041$ ）。また、歩数による比較では、歩数の多い群は少ない群に比べ KDQOL の「腎疾患による負担」で有意に QOL が良好であった（ $p=0.017$ ）。一方で、K6、血液データ（クレアチニン、アルブミン、ヘモグロビン）および患者背景因子（透析歴、併存疾患スコア）は 2 群間で差がみられなかった。

【考察】

血液透析患者の身体活動量は「腎疾患による負担」と関連性がみられ、一方で歩数による 2 群間で血液データ、透析歴、併存疾患スコアに差がなかったことから、腎疾患による負担感が身体活動量に影響している可能性が示唆された。これは、血液透析患者の「からだ」と「こころ」の関連性における特徴を示すものとする。

【結論】

維持血液透析患者の身体活動量と精神的健康の関連性には疾患特異的な要因が関係しており、身体活動性の維持・向上には適切な疾患管理と精神的ケアが重要であることが示唆された。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第 517 号）

キーワード：心身健康科学、血液透析、身体活動、腎疾患特異的 QOL、精神的健康

インドネシア都市就学前教室 37-48 ヶ月児過体重の要因

○尾崎 敬子¹⁾, マルタ・イレーネ・カルタスルヤ²⁾, ユディ・ダルマワン²⁾,
吉田 浩子³⁾, 庄子 和夫³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) ディポネゴロ大学 公衆衛生学部

3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

低所得国において、小児期の過体重／肥満は取り組むべき課題である。先行研究では、社会経済的背景、両親の栄養状態、小児の食の内容、出産様式、母子間の細菌叢の移行状態等の個々の要因が異なる集団で検討されてきた。本研究は、同一集団において小児の過体重の要因を包括的に調査し、出産様式に着目しデータを解析し、心身相関の視点からの考察を目的に実施した。

【方法】

2018年1～5月にスマラン市の就学前教室 37-48 ヶ月児 116名（過体重児，標準体重児，各 58名）とその母親の身体計測，及び質問紙を用いたインタビュー調査を実施し，データを統計解析（SPSS 19.0）した。

【結果】

帝王切開分娩は児の過体重の要因であった(aOR=5.00, 95%CI=1.16-21.67)。帝王切開出生児 60名では，母乳栄養のみ（生後一週間）（調整後オッズ比：aOR=0.13, 95%信頼区間 CI=0.03-0.64），母乳栄養のみ（生後6か月間）（aOR=0.14, 95% CI=0.03-0.61）は，37-48 か月時の過体重の負の要因であった。経膈分娩出生児 56名では，母親の高学歴(aOR=4.33, 95%CI=1.39-13.47)，就労(aOR=13.30, 95%CI=2.40-72.61)は，児の過体重の要因であり，生後6週間の健診(aOR=0.34, 95%CI=0.15-0.77)，家族との共食（aOR=0.06, 95%CI=0.01-0.52）は，負の要因だった。

【考察】

同一集団において，37-48 ヶ月時の過体重の要因が確認された。分娩様式により，異なる要因が児の過体重を緩和すると考えられ，母子の「からだ」「こころ」「社会習慣」が児の体重と関連していた。

【結論】

帝王切開分娩後の母乳栄養，経膈分娩後の産後ケアや家族との共食との関連など，小児の過体重に関わる心身相関の様相を実証的に示した。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第 525 号），ディポネゴロ大学（No.208/EC/FKM/2017）。
キーワード：小児過体重，出産様式，母乳栄養，家族食，インドネシア

社会的シグナルがヒトの衝動性制御機能に及ぼす影響

○浜部 恵美¹⁾, 久住 武²⁾, 小岩 信義²⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻

2) 人間総合科学大学大学院

【目的】

ヒトの眼周囲画像と幾何図形を用いた Go/Stop 課題を新たに考案し、これを用いてヒトの社会的シグナルと衝動性制御機能との関連性について検討した。

【方法】

14 名を対象に Go/Stop 課題を行った (Go 課題 : 70%, Stop 課題 : 30%)。Go 課題の Go 刺激画像として左右いずれかの方向を示す①矢印画像と、②ヒト注視画像をモニターに提示した。注視画像は、中性、恐怖、喜び表情における眼周囲画像とし、これと矢印画像を加えた 4 種類の Go 刺激画像を均等な割合で疑似ランダム提示した。Go 刺激画像の矢印または視線方向に応じて、右または左のマウスボタンを素早く押すように指示した。Stop シグナルは、Go 刺激画像を囲む楕円の線の色を変えることで提示した。分析パラメータは、Stop 課題のエラー率 (コミッションエラー率)、事象関連電位 (event-related potential: 以下 ERP) とした。

【結果】

コミッションエラー率は、矢印画像に比べて、注視画像の値が低かった。Stop シグナル提示の前後 1000ms の ERP を検討すると、反応抑制成功時と失敗時ともに Stop 刺激の前 400ms 付近から Stop 刺激提示まで緩徐に上昇する ERP 電位をみとめた。Stop シグナル提示時および提示から 50-100ms の ERP 電位は、反応抑制成功時に比べて、失敗時の電位が高いことがわかった。

【考察】

矢印画像に比べて注視画像のコミッションエラー率が低かったことから、社会的シグナルがヒトの衝動性制御に影響する可能性がある。また、Stop 試行における成功時と失敗時の ERP の違いを、シグナルの提示から早期の時間帯に認めた。この電位に着目し、他の時間帯の ERP 電位、Stop 試行のエラー率、脳内起源との関連について、今後解析を進めることが必要と考える。

【結論】 社会的シグナルはヒト衝動性制御に影響する可能性がある。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第 425 号）

キーワード：心身健康科学，Go/Stop 課題，注視，コミッションエラー率，事象関連電位

—MEMO—



日本心身健康科学会 事務局
人間総合科学大学内 人間総合科学 心身健康科学研究所内
〒339-8539 埼玉県さいたま市岩槻区馬込 1288
TEL : 048-749-6111 FAX : 048-749-6110
E-Mail : jshas@human.ac.jp URL : <http://www.jshas.human.ac.jp>